

ごほんぞん  
ご本尊  
アフターケア通信

11

月号

報恩講

真宗門徒の伝統

コラム

豪華なお飾り

けそく  
華束



▲本堂の華束の一例



▲お内仏の華束の一例

報恩講や年忌法要でお備えされる餅飾りのことを華束といいます。この華束は供笥くげに小餅を積み重ねて盛ります。

お寺の本堂では、目を引く大きな華束が備えられますが、お内仏の場合は供笥の上に、二段もしくは三段程度の白餅を備えるとよいでしょう。

華束を備える行事

- ・祥月命日
  - ・年忌法要
  - ・中陰
  - ・お正月※、お盆
  - ・お彼岸
  - ・報恩講
  - ・御移徙ごいし(入仏式)
  - …など。
- ※お正月は鏡餅をお備えします。

しゅみもり  
表紙イラスト「華束(須弥盛)」

…主に報恩講の時にお備えされる餅飾り。

今月の門徒さん



「皆で迎える報恩講」

小洞 ヨシ子さん (豊前中津組 観定寺)

例年、立春とは名ばかりな厳しい寒さの2月上旬に私たちのお寺の報恩講はお勤めされます。

正月を過ぎた頃から住職・坊守・門徒が一丸となり、おみがきをし、お華束を備え、お荘厳を整え、その日を迎えます。

新型コロナウイルスの影響で、この頃は何かと変則的に進めざるを得ないこともありましたが、皆の想いはひとつ、一堂に会して報恩講をお勤めしようということです。

報恩講をお勤めできるよるこびやご縁のありがたさの中、「正信偈」を唱和しごでんしょう『御伝鈔』を拝聴して、親鸞聖人のご遺徳を皆で偲びます。



うちのお寺の報恩講も寒い時期に勤められますが、そんな中で皆が一堂に集まる法会は忘れ難い体験ですね。

kyushu-kyoku

九州教区



発行：真宗大谷派 九州教区教化委員会

〒830-0038 福岡県久留米市西町 540-1 TEL.0942-32-3056



# 報恩講

▲真宗本廟(東本願寺)報恩講

## 親鸞聖人の御命日

親鸞聖人は1262年11月28日に90歳のご生涯を終えられました。報恩講は宗祖親鸞聖人の御命日を機縁としてお勤めされる法要です。

お念仏の教えを私たちに遺してくださった宗祖や先達のご恩と徳に報じ、謝する仏事です。「一年は、報恩講に始まり、報恩講に

終わる」と言われるほど、真宗門徒にとってはもっとも大切な仏事です。

真宗本廟(京都・東本願寺)では、毎年11月21日〜28日に「御正忌報恩講」が勤められます。それにならって、世界中の真宗のお寺を始め、地域・家庭などでも報恩講が勤められています。

## 起こりと広まり

親鸞聖人は師である法然上人の御命日(25日)に念仏相続の仏事を勤めておられました。聖人亡きあとは門弟たちがその伝統を受け継ぎ、28日に皆で集って仏事を勤めたのです。

やがて、聖人のひ孫にあたる本願寺第三代の覚如上人が三十三

回忌をお勤めするにあたって『報恩講私記』を著して、そこから聖人の御命日の仏事が「報恩講」と呼ばれるようになりました。

第八代蓮如上人の頃になると、次第に宗派を超えて多くの方が報恩講にお参りするようになり、宗祖への「知恩報徳の御仏事」として全国各地で盛んに勤められるようになっていきました。

▼報恩講中の御影堂内の様子



## 「報恩の仏事」と「追善の仏事」

法然上人は「私が亡くなった後は追善の仏事ではなく報恩の仏事を行ってほしい」とお言葉を遺されています。この「追善の仏事」とは、死者の冥福を祈るものです。一方、「報恩の仏事」は、亡き人の死を通して、一人ひとりがお念仏の教えに出遇う念仏相続の仏事だといわれます。親鸞聖人はこの師の教えに生涯を

尽くされました。その遺志は報恩講として、皆さんの所属のお寺や地域にも受け継がれています。

お坊さんも門徒さんもご本尊の前に集い、「報恩の仏事」をともにお勤めすることが大切です。ぜひ事前の準備(おみがきやお掃除など)から参加してみてください。いかがでしょうか。



▲あるお寺のおみがきの様子